

「地域の中核、世界の人材」 U N I V E R S I T Y O F Y A M A N A S H I

山梨大学広報[ヴァイン]

August 2014 vol.23

Vine

附属図書館
リニューアル

[人物発掘]

川原敦雄教授

(大学院医学工学総合研究部/医学部医学教育センター)

[びっくあっぷレッスン]

書写演習I

[ゼミ紹介]

工学部電気電子工学科 本間研究室

サークル紹介/クローズアップびーふる / キャンパス内外情報





附属図書館 リニューアル

甲府西キャンパスにある附属図書館(本館)をリニューアルしました。

1、2階には共同学習スペース「ラーニングcommons」を設置。ラーニングcommonsは、印刷された図書だけでなく、さまざまなソースからの情報を利用して学ぶ学習スペースで、少人数のセミナーや討論の場としても利用できます。仕切りはなく、開放的な雰囲気の中で、「周囲のディスカッションに刺激を受けて、学習意欲を向上させてほしい」との思いが込められています。

リニューアルした図書館の明るく、開放的な空間で、仲間たちと活発に議論し、大いに学びましょう。学習席は合計で約330席。プロジェクターやiPadなどの館内貸し出しも開始しました。

さらに大型ポスタープリンター、高速印刷機、大型モニターの供用も行っています。

プレゼンエリア

固定プロジェクターを使えば多人数でのプレゼンが可能。机上用プロジェクター・スクリーンセットも自由に利用できます。

発表本番前の練習にも、勉強会にも使用OK。机が動かせるので、人数に合わせて、勉強できます。



グループミーティングエリア

貸し出しのiPadを利用してみんなでミーティング。メモ台付チェアで、何人でも、どんな形でも、自由に使う。

ライティングサポートエリア

学生のみなさんの学習を、サポートデスクのスタッフがアシスト。スタッフはみんな本学学生なので、先輩として、より実践的なアドバイスが期待できます。

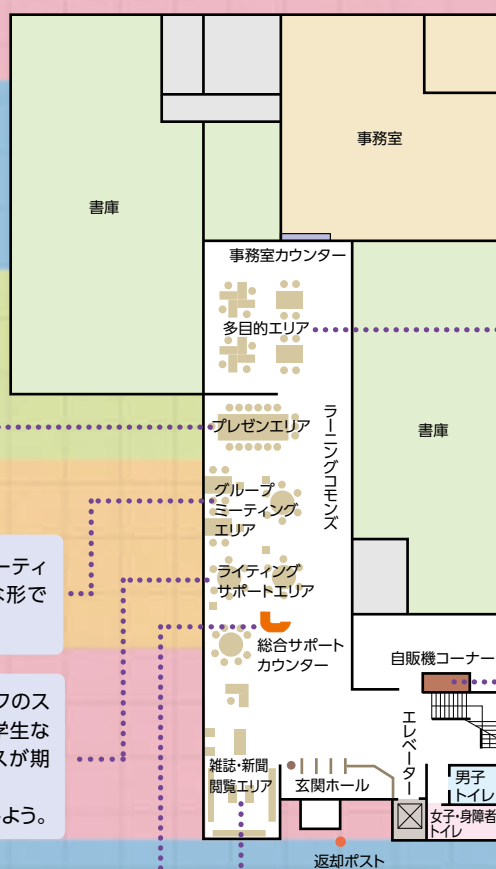
レポートから卒論まで、気軽に相談してみよう。

総合サポートカウンター

図書館職員が常駐。資料のこと、文献のこと、検索のこと…なんでも尋ねよう。ちょっとしたヒントが資料集めの効率化に!「こんなこと」なんて思う前に、まずは質問してみよう。



1階



多目的エリア

大型モニターにPCを繋いで、話し合いながら、教えあいながら、みんなでワイワイ勉強。
使い方は発想次第。

自販機コーナー

疲れたらここで一休み。
自販機があるのでとても便利。ゆっくりくつろいで。

新聞・雑誌閲覧エリア

新聞11紙(うち英字新聞2紙)。雑誌は読み物を中心に、最新号を置いています。のんびり、ゆったり、くつろいで読みましょう。



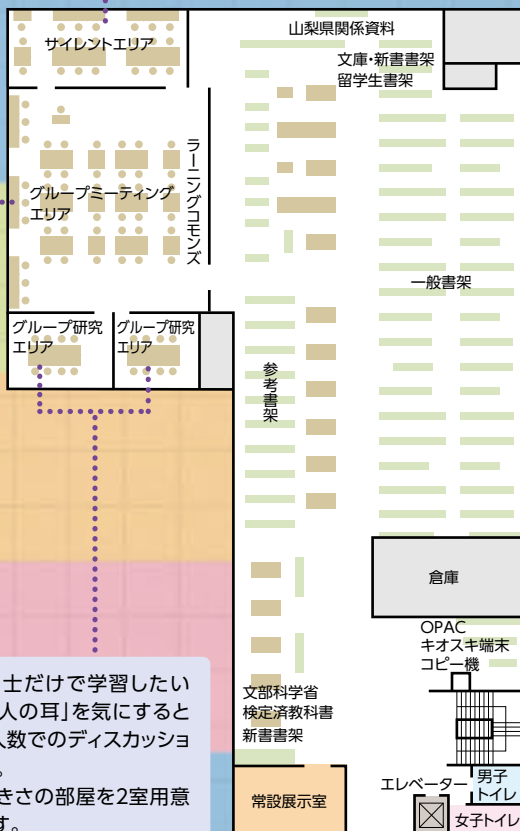
ラーニングロモンズ ～オープン～



サイレント エリア

静かに勉強したい人には「サイレントエリア」を用意しています。従来の図書館のように私語を禁止し、静かな環境で集中して勉強や読書ができます。

2階



グループミーティング エリア

少人数でも多人数でも利用できるエリア。周りのディスカッションの声に刺激されながら、学習を進めよう。

グループ研究室 エリア

仲間同士だけで学習したいとき、「他人の耳」を気にするときに。少人数でのディスカッションに最適。同じ大きさの部屋を2室用意しています。

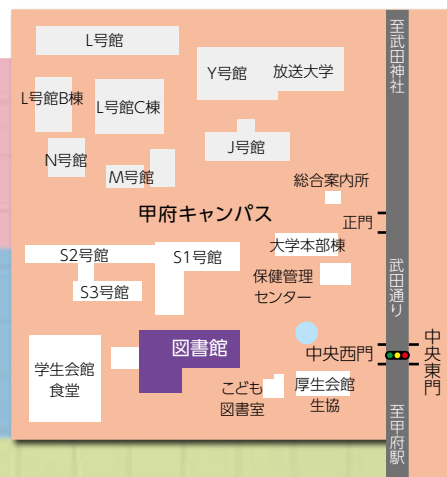


◎開館案内

通 常	平 日	8:45~21:00
	土曜日	13:00~16:30
各季休業期間	平 日	8:45~17:00
	土曜日	休館

一般の方でも利用可能です。詳しくは
附属図書館ホームページ(<http://lib.yamanashi.ac.jp/>)をご覧ください。

◎場所案内



3階

THE UNIVERSITY OF YAMANASHI LIBRARY

発掘人物



川原敦雄教授

(大学院医学工学総合研究部 / 医学部医学教育センター)

「ヒトはどのようにして形作られていくのか?」という壮大なテーマのもと、ゼブラフィッシュを用いた実験で心臓発生の分子メカニズムの一端を解明し、脂質メディエーターの細胞外への分泌機構というブラックボックスの蓋を開けるなど、基礎医学の分野で活躍する川原敦雄先生。

「生物の生命現象は、非常に理にかなっていて、とても美しいんですよ」と、笑顔で教えてくださいました。

豊かな自然のなかで、 生き物と親しんだ子ども時代

私は熊本の非常に自然が豊かな町で育ちました。自宅や学校の周辺には田んぼが広がっていて、オタマジャクシやゲンゴロウ、タイコウチなど、いろんな生き物がいたんですね。子どもの頃は、そうした生き物を採集したり、家で飼育したりするのが楽しかった。なかでもカブトムシとクワガタは大好きでしたね。

今、医学部で「生物学」の講義を担当していますが、「理科」、なかでも「生物」は子どもの頃からずっと好きでした。やっぱり、周囲にそういう環境があって、小さい頃からそういうものに触れる機会が多かったことが大きいんじゃないかと思うんですけど。

今年の2月に赴任して約半年になります

が、山梨は四方を山に囲まれた、自然豊かなとても住みやすい環境ですね。せつかつくなので、落ち着いたら山登りにも挑戦してみたいと思っています。

バイオテクノロジーへの興味から、 筑波大学の応用生物学科へ

私が高校生の頃は、ちょうどバイオテクノロジーが出始めた頃で、私自身も「バイオテクノロジーとは何ぞや」と言うところに興味を抱きました。それで、それが学べる学部学科がいいなと思い、筑波大学の第二学群農林学類応用生物学科(当時)へ進んだのですが、4年間学ぶなかで、いつしか自分の興味が、より基礎医学とか、基礎生命科学に近い分野にシフトして行きました。それで、卒業後は、他学部の出身でありながら医学に興

味のある人が集まる「医科学修士課程」に進もうと。大阪大学へ移ったのは、ちょっとした偶然からです。というのも、当時、「医科学修士課程」は筑波と大阪大学にしかなく、研究室の1年先輩の方がその両方を受けられたんですね。それで、私も同じように、その2つを受験したというわけなんです。

そうはいつても、大学生、あるいは大学院生のような非常に若い研究者は、どこの研究室で学ぶか、どちらの先生に指導を受けるかということに、多大な影響を受けるんですね。ですから、スタートをどこにするかは、研究者にとってとても重要です。私の場合も、興味深い研究をやっていたら先生がたくさんいらしたので、さてどうしたものかとその時点から深く考えました。幸い、当時の阪大の大学院は、1年間授業を受けながら研究室を決めることができるという非常にユニークなシステムが採用されていたものですから、実際に授業を受け、先生方のお話もいろいろとお聞きし、研究室も見学したりしながら、最も興味があるのはどれかと言うことをゆっくりと考えることが出来たんです。その結果、谷口維紹先生の研究室にお世話になることにしたのですが、そこで勉強させていただいたことは今も生きていますし、そのときにスタートした研究が、大きな枠組みでいえば今と非常に近いところにあることから、あの1年間の猶予期間があったからこそ、今の自分があるのかなと思います。

受精卵から人になるメカニズムを、 分子レベルで解析

我々の身体はひとつの受精卵から作り上げられるわけですが、その時にどういったこと



「好機は備えある心に宿る」(レイ・パスツール)
 同じ環境で、同じことをやって、
 同じ結果が出たとしても、
 そこから得られるものは、人によって違います。
 準備を整えている人だけが、
 そこからチャンスを見出し、飛躍できるのです。



Kawahara ATSUO

が起きているのかということは解明されていません。現在の私の研究テーマはまさにその部分でして、なかでも循環器系と言われる部分に興味を持っています。というのも、私達の身体には、隅々にまで血管が通っていて、ポンプの役割を担う心臓から押し出された血液によって、栄養も、老廃物も運んでいる。このネットワークが、循環器です。我々の生命維持にとっても重要な機能であると同時に、単に臓器が出来れば良いということではなく、うまく連携をとりながら全体が構築されていかないとネットワークは作れないわけですから、非常に複雑で困難な作業だと想像されます。私自身は、その部分を分子レベルで明らかにできればと思います。ゼブラフィッシュを使って研究を進めているところです。ゼブラフィッシュは、たった数センチの魚ですが、実は、その生命体が形成される過程で起きているイベントは、ヒトと非常に良く似ているのです。形も大きさも違うんですけど、基本的には同じようなメカニズムで生き物の身体は作り上げられているということなんです。

研究は、未知のモノへの挑戦 ときには失敗から得たものが、 劇的な飛躍を生むことも

研究者の仕事は、未知のモノ、今明らかにされていないことに対して臨んで行くということ。ですから、答えはあるけど解らない。そして、その解らない答えを明らかにする手段もまた解りません。非常に難しいことも多々ありま

すし、実験や観察はけっして前進が約束されているわけではなく、むしろ思い通りの結果が得られないことの方が多いんです。でも、失敗のなかに大きなヒントが隠されていて、それが突然の飛躍を生むこともある。解らないことが解るといのは、大きな喜びです。とりわけ、世界で最初に解ったとき、あるいは発表したときは、これ以上ない喜びを感じることができます。さらに、解ったとはいってもそれはごくごく一部であって、解ることによって新たな疑問も見えて来る。すると、またそれに挑みたくなる。世界中の多くの研究者のこうした挑戦が、日進月歩と言われる医学の進歩を支えているのです。

実際、今私が教えている講義の内容は、私が大学のときに学んだ内容とは大きく異なります。それは、この20年、30年で明らかになったことがたくさんあるからなんです。もちろん、20年後、30年後にはさらには変化するでしょう。だからこそ、講義のなかでは、最近解って来たことや、今はまだ解らないんだということ、確定はしていないけれどこういところまで来ているということなんかも伝えるようにしています。それによって、学生の「知りたいな」という知的好奇心に触れることが出来たらなど。医学部の学生のほとんどは医療の道を志しているようですが、実際には、ヒトの体のことを専門的に学んだ人が活躍できる場は想像以上に広いです。個人的には、基礎研究の分野に興味を持つ学生が一人でも増えてくれたらとても嬉しいですね。



【略歴】

- 1989年 筑波大学第二学群農林学類応用生物学科卒業
- 1995年 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了
- 1995年 大阪大学医学部遺伝学・学術振興会研究員
- 1998年 米国NIH・招聘研究員
- 2003年 京都大学先端領域融合医学研究機構・科学振興助教授
- 2007年 国立循環器病研究センター(細胞生物学部・室長)
- 2011年 独立行政法人理化学研究所生命システム研究センター(循環器分子動態研究ユニット研究ユニットリーダー)
- 大阪大学大学院生命機能研究科招聘教授
- 2014年 山梨大学医学部教授

【専門分野】

発生生物学/分子生物学

【研究テーマ】

循環器系の形成機構の解明



上段が最初に書いた字、下段が指導後に書いた字。成長が目に見えます！

【担当教員】

教育人間科学部 宮澤正明 教授

【到達目標】

硬筆が生活の主流となっている今日の中でも、学校で学ぶほかに書初めやお店の看板など、毛筆は文化として根強く残っています。子どもたちも、義務教育の

間に国語の授業の一環として「書写」の授業を受けます。「書写演習I」は、教師が小学校・中学校の書写の授業を、しっかりと理論を踏まえて子どもたちに教えることができるようになることを目標とした授業です。

書写演習 I



学生の机で実演。目の前で実演してくれます。

【授業の概要】

教授の指導風景。細かく注意点を挙げ、解説を行います。

授業は実践を中心として行われます。その中身も、自分たちが小学校で学んできた理論を中心に構成されています。一つ一つの基本点画や字形を整える原則などをしっかりと頭に入れ、実際に毛筆で書いてみることでその実感を持つことができます。授業の流れとしては、まず授業内容に即した課題を受講者が書いてみることから始まります。次に、その課題文字を書くにあたっての注意点を、板書を利用して指導していただきます。そして、その注意点を意識しながら、それぞれもう一度書いてみます。この授業では半年を通して、九つある基本点画や字形を整える五つの原則を一つずつ丁寧に学んでいくことができます。

実際に授業を受けてみると、この流れでの一枚目と二枚目には驚くほどの差が生じます。一般的には書写というと、感覚的に書いたり手本に似せて書いたりするイメージがあります。また、芸術的な表現としての「書道」のようなイメージが先行しているようにも感じられるのですが、この授業は、書写がいかにも理詰めで行われているかを実感することができます。教授による実演を間近で見ることができるので、さらに自分が書くときのイメージも湧きやすくなります。感覚的に書いていると、実際に子どもたちに教えることは困難を極めるどころか、伝わらないことも考えられます。人に教える明確な基準として、この授業で学ぶ知識は大いに役立ちます。

この授業は国語系の学生は二年生の前期に受講することになります。実際に三年生の教育実習の際に書写の授業を担当した学生の中には、この授業を受講していなければ何を教えてよいかわからなかった、という声もありました。教師が書写の理論をふまえた上でしっかりと指導ができるようになるので、受講できて良かったと思える授業です。

(教育人間科学部国語教育専修4年 小林恭輔)

大量の情報を記録、転送、処理、消費する時代、 次の時代のメモリはどんなメモリ？

光情報処理×計算機情報処理を駆使して、
新しい概念のシステムを作り出す

膨大な情報が生みだされる社会

近年、様々な高精細映像がビデオオンデマンドで配信されるようになりました。また、消費者の行動情報を大量に記録したビックデータから有用な情報を抽出し、新しいサービスの開発に役立っている技術が活躍しています。このような技術は、人々の生活をますます楽しく、快適にしてくれることでしょう。

一方で、高度なIT化により毎年膨大なデジタル情報が生み出され、これを記録するデバイスの寿命や消費電力が問題視されています。一般的に使用されるハードディスク(HDD)の寿命は3~5年であり、現在の記録データは5年程度で新しい記録デバイスに移し替えなければなりません。そこに費やされる労力やエネルギー、廃棄される資源は膨大な量となります。省資源・省電力の観点から、長期保存が必要な映像や書籍データ、人類にとって重要な歴史的なデータをどのようなデバイスに記録するのかを近い将来真剣に考える必要があるように思われます。

以上のことから、研究室に所属している学生は、以下の研究に取り組んでいます。

長期保存・省電力・大容量の 光メモリの開発を目指して



ホログラフィックメモリの実験風景



開発中の顔認証システムの実験風景。顔の立体形状を測定中

長期保存・省電力という観点から、光ディスクを用いたアーカイブ技術が注目されています。しかし、現在のブルーレイディスク(BD)の記憶容量は50GB程度であり、その容量では十分とはとても言えません。本間研究室では、大容量・高速転送のホログラフィック光メモリ

の開発研究を行っています。みなさん、「ホログラム」はご存知でしょうか。クレジットカードや紙幣にあるキラキラ光る銀色の部分。同一箇所に複数の絵柄が記録されており、光を当てる角度を変えることにより個別にそれぞれの絵柄を再生することができます。この技術を用いると、同じ領域に数十枚から数百枚の情報を多重記録することができ、飛躍的に光メモリの記録密度が改善されます。現在、この技術を用いてBDの数百倍の情報を記録できる光ディスクメモリの開発を目指して研究しています。

光情報処理×計算機情報処理を 活用した顔認証システムの 開発を目指して

開発中の光メモリは、数百万ビットのページデータを同時に記録再生することができます。この光メモリの応用として、超高速画像照合技術とこれを利用した顔認証システムの開発を検討しています。ステレオビジョン技術による顔形状測定技術と組み合わせ、超高速に人物を特定できるシステムを開発したいと考えています。

研究室では

世の中にあるすべての製品・技術は、きっと誰かがちょっとしたアイデアの種を蒔いて、様々な人の手が入り、じっくり育てられてきた産物だと思っています。大したことの無いアイデアと思って捨てておかないで、他の技術と組み合わせたり、見方を変えてみたり、工夫してみてもどうでしょう。周りの人に話してみましょ。議論してみましょ。たくさんのアイデアを生みだしたら、その中には立派な木になったり、素敵な花になったり、面白い草花になるものがあるかもしれません。研究を通して、自ら考えたアイデアの種から花を咲かせるお手伝いをしたいと考えています。





山梨学生短歌会

blog <http://nashitan.blog.fc2.com/>

twitter @nashitan_y

e-mail nashitan.y@gmail.com



歌会の風景(2014年6月21日)

あります。昨年度は短歌のイベントで富山に、合同合宿で東京と北海道に遠征をしました。

まだ歴史が浅くメンバーも少ない分、新しい試みをどんどん取り入れられるのも「なしたん」の魅力のひとつです。歌会や勉強会のスタイルから公開イベントの企画まで、自分たちの活動を自らの手で作り上げていく楽しみは、新しく出来たサークルならではのものかも知れません。

最後に、昨年秋に発行した「青梨 vol.1」から5首、メンバーの作品を引用します。

「空しい」という字のなかの空はまだ夕焼けも朝焼けも知らない／早馬麻衣
 ひだりむねにはワニがいてほっそりとしたたましいを縫い止めていた／さとうすすえ
 履きなれない靴をおとしてしまいいそいでつま先をぎゅっとした 東京／中島咲
 たくさんさんの名前を持っているネコが キャンパスの隅身を寄せてくる／寺本百花
 知らないものはみなうつくしい 置き去りのフィリップ・モリスの箱のあざやか／本山まりの

2013年度公認のできたてサークル「なしたん」

こんにちは、山梨学生短歌会です。

山梨学生短歌会(通称・なしたん)は、2012年秋に発足したインカレ短歌サークルです。2013年度より、山梨大学公認サークルの仲間入りをさせて頂きました。現在、山梨大学・都留文科大学の学生を中心に、高校生から社会人までのメンバーが集まって短歌を楽しんでいます。短歌を始めたばかりの人からプロの歌人として活躍されている方まで、歌歴も様々です。

短歌と聞くと「なんだか難しそう……」と思われる方もいらっしゃると思いますが、ルールはごく単純で、5・7・5・7・7のリズムに大体合致していればOKです。季語は必要ありません。古語を使う必要も、掛詞を盛り込む必要もありません。友達と気楽に話しをするときのようなくだけたことばで詠うことも可能です。現代短歌は題材の取り方も使う言葉も非常に自由で、誰でも思うままに自分の世界を作り上げることが出来ます。

「なしたん」では月1~2回の歌会(作品を持ち寄り、読み合う会)・勉強会の他、毎年秋に機関誌「青梨」の発行と公開トークセッションを行っています。全国の学生短歌会員が一堂に会する合同合宿に参加させていただくことも

短歌がことばの世界に興味をお持ちの方、
 ぜひ一度「なしたん」に遊びにいらしてください！
 三十二文字の世界を少しでも
 楽しんでいただけたら幸いです。



歌会によって短歌の世界はさらに広がります



星を観る会



野辺山の星空

満天の星空の魅力を伝える 星を観る会

こんにちは山梨大学医学部「星を観る会」です。

私たちは月に一度新月のころを狙って観望会を開いています。街の明かりから少し離れた天体観測スポットまで行き、きれいな星空を眺めています。

普段見ている星空は光害(街の明かりや月の明かりのために星が見えなくなる現象)のために美しくありません。満天の星空は実際に見ることでは体験できません。

現在部員は20名を超えました。経験者初心者問わず、楽しく星を観ることができるのが、「星を観る会」の魅力だと思います。各部員がそれぞれの興味関心に基づいて活動を展開し、文化部ながらも活動の幅を広げてきています。たとえば天体撮影、星座神話、プラネタリウムなどです。

部として望遠鏡を所有しているだけでなく、個人で所有している部員もいます。上の写真は部員が実際に撮影したものです。

また、有志で星座にまつわる神話の勉強会を開いています。星を観るうえで星座に関する知識は必ずしも必要ではありませんが、楽しみ方の幅が広がると考えています。

医学祭ではチュートリアル室の一室を借りてプラネタリウムの解説会を開いています。部で

「満天の星空の魅力を周囲に伝えていく」ことを理念としています。
 私たち「星を観る会」は、皆さんは満天の星空という言葉のイメージを持っていると思います。しかし、満天の星空の魅力は「観る」ことでしか体験できません。多くの方に「観て」「体験して」いただきたいと思います。私たちは考えています。

所有しているプラネタリウムのドームを作り、そこに星の映像を投影し、部員が解説しています。解説の内容は部員によって異なります。たとえば、今日見える星空の解説や星座神話の解説を取り入れる部員もいます。多くの方々に見ていただき、毎年好評を博しています。皆さんもぜひ足を運んでみてください。

学外の活動として、甲府東小学校でボランティア活動を行っています。小学生向けの観望会にスタッフとして参加しています。

年に2~3回、夏と冬に合宿を行っています。夏は山梨県外で合宿を行っています。日中は思い思いに楽しみ、夜は普段とは異なる環境下で星空を観ています。冬は山梨県内の天体観測施設で合宿しています。冬の12月は一年で最も星空がきれいに見えるシーズンです。流星群の時期と重なり、星だけでなく流れ星もたくさん見ることができて毎年好評です。



ハワイ島にて

close-up people



フィリピンでのルームメイトと

©生命環境学部環境科学科2年 生駒忠大さん

フィリピン語学留学は どうでしたか？

まずは自己紹介をお願いします

生命環境学部環境科学科2年生の生駒忠大です。学科のみんなからはなぜか環境小僧と言われてます(笑)スポーツが大好きで、たまに夜ランニングをして自分をいじめています。動物も好きで、うさぎのミミちゃんを飼っています。彼女はいません。かわいくて優しい子募集中です!! (H26.6月時点)

大学生活はどうですか？

「充実」の一言に尽きます!同じ学科のみんなが楽しい人たちがばかりで、一緒にいて退屈することがありません。先生や先輩方にも恵まれて、充実した大学生活を送っています。また、大学生になって自由に使える時間が増えたので、大学での勉強に限らず好きなことをして時間を有効活用しています。1年の夏休みはJICAの「地球案内人プログラム」に参加しました。このプログラムは国際機関を訪問しながら世界が抱える課題について学んだことを、自分たちでワークショップを作り一般の人に伝える、というものです。全国から集まった13~14人の仲間と東京の市ヶ谷で2週間を共に過ごしました。この合宿で多くの人と出会ったことが、自分にとってかなり良い刺激になりました。また、春休みはフィリピンへ語学留学に行きました。



JICAの「地球案内人プログラム」合宿のみんなと



フィリピンの海でのクラーク語学学校の仲間と

とても楽しく充実した7週間でした。語学留学をすることに決めたのは、NICE

という国際交流サークルで全く英語が話せずショックを受けたためです。日本にいるとどれだけ英語ができていないのか実感する機会がありません。そのため海外に出て刺激を受けたいと思いました。また、以前から途上国に行きたいと思っていたのもあって、欧米に比べて安く行くことのできるフィリピンへの語学留学を決めました。海外に行くのは初めての経験で、成田空港に着いた頃からかなり緊張していました。フィリピンはすべてが新鮮でした。私が行ったクラーク語学学校は日本人と韓国人が大半で、マンツー

マンレッスンが受けられます。先生と一対一で、電子辞書は使わずに身振り手振りを使いながら話すので、かなり会話力がつきました。先生とは友達ようになり、祝日には一緒に遊園地へ遊びに行きました。ここは一年中生徒を受け入れて

いるため、生徒の入れ替わりが頻繁にあります。そのため、毎週金曜日はフェアウェルパーティーが行われ、別れを惜しみながら仲間と飲んだり食べたりしました。この学校に来る人はおもしろくて変な人ばかりでした。仲良くなった人とは今でも連絡を取り合っており、良い関係を続けています。この語学留学は英語力以上に、仲間との出会いが大きかったです。フィリピンにいて苦痛を感じることはありませんでした。水と食事で6回お腹を壊し



フィリピンでの授業風景

たり、トイレに紙がないのには苦労しましたが…。(笑)男の人に絡まれてお金を取られそうになったこともありましたが、

ちょうどその場にいた先生が追いつけてくれたので助かりました。また街にはストリートチルドレンがいて、フィリピン社会の現実を目の当たりにしました。しかしそういった面を上回るほど、フィリピンの人たちの人柄がよくて、大好きになりました。9月にまた遊びに行ってきます(笑)

最後に!

日頃心掛けていることは、目的を大事にすることです。大学生活をただ何となく過ごすことはできるけれども、今やっている小さなことが何に結び付くのか考えて行動するのとしめないのでは、得られるものが全く違うように思います。ただ「楽しかった」や「頑張った」で終わらせないために、自分はどうしたいのか目的を探しながら大学生活を送りたいです。また、大学に入っているいろんな人と出会ったことで刺激を受け、客観的に自分を見られるようになった気がします。いろいろな人と会うことで自分の足りないところ、強みがわかるようになりました。人との関係は求めていると意外なところで出会えますよ!でも異性との出会いはないですね(苦笑)

KOFU CAMPUS

甲府

様々な商品やサービスで私たちの生活を幅広くサポート

今回紹介するのは、私達の生活をサポートしてくれる購買です。購買は山梨大学甲府キャンパスの厚生会館1階にあり、毎日多くの学生が利用しています。

お弁当、お菓子、飲み物など飲食物の他、PCやiPodなどの情報機器、教科書や雑誌などの書籍、様々な商品が販売されています。他にも就活支援の為にサービスや旅行プランの予約などもできます。



お弁当やお菓子やパン類など満足できるラインナップ

毎年変わる学部にあったスベックが入った大学推奨PC



山梨大学生協購買書籍部

山梨県甲府市武田4-4-37

[電話] 055-252-4757 [FAX] 055-251-2161

[営業時間] 8:15~18:10

[お問い合わせ]

<https://www.univcoop.jp/mfp/yamanashi01.html>

私たちの心強い味方の購買ですが、中でも私のオススメの商品は「大学推奨PC」です。毎年多くの学生が購入しています。その理由は学部事情にあったオススメ機種が販売されていて、万が一故障しても安心な四年間の保証、医学部生の為の辞書登録やソフトインストールなどの初期設定の講習会があることです。とても充実したサービスであり安心して購入することができます。特に講習会は学生が講師となって親身になって教えてくれます。私も講習会で手伝ったことがありますが、講習会に参加した人は大いに満足してもらえます。

他にも非常に様々な商品やサービスがありここでは紹介できません。読書がしたいとき、お腹が減ったときなどきつと欲しいものが見つかるはず。山梨大学に立ち寄った際に一度購買に足を運んでみてはいかがでしょうか？

(工学部コンピュータ理工学科2年 渡邊祐也)



雑誌や学術書や文庫本など幅広い品揃え

FACULTY OF MEDICINE CAMPUS

医療・命について深く学ぶことができる医学部の強い味方

今回紹介するのは、山梨大学附属図書館医学分館です。医学系の図書・AVが数多く揃えられており、米国国立医学図書館分類法に基づき配架されています。また、特別利用の申請を行えば閉館中にも図書館を利用することができ、いつでも学びたい時に学べる環境が整っています。私達学生だけでなく、医学部附属病院で働く職員の方の姿も多く見かけます。山梨大学医学部の強い味方です。



閲覧室(勉強スペース)の様子

この図書館には「生と死のコーナー」という医学部ならではのコーナーがあり、生と死や終末期医療、生命倫理について書かれた図書等があります。医療に携わる人間として忘れてはならない、命の大切さを学ぶことができる素晴らしいものばかりです。

学外の方であっても、開館時間中に限り図書館を利用することができます。利用証*があれば本の貸出も可能です。

医学系以外の資料もありますし、学習スペースも多く設置されています。情報検索コーナーや視聴覚室ではPCを利用することもできます。勉強をしたい方はもちろん、興味を持たれた方も、ぜひ一度立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

(医学部看護学科2年 高橋瑞季)

*利用証発行手続きのためには、初回平日9時から17時の間に免許証などの身分証明書を持って来館していただく必要があります。利用証はその後年度末まで有効となります。

山梨大学附属図書館 医学分館

山梨県中央市下河東1110

[電話] 055-273-9357 [FAX] 055-273-6164

[E-mail] servmed@yamanashi.ac.jp

[開館時間] 平日9:00~20:00,土曜日9:00~13:00

[休館日] 日曜日、国民の休日および振替休日、開学記念日(10月1日)、年末年始(12月27日~翌年1月4日)



生と死のコーナー

医学部

イングリッシュカフェをオープン

平成26年5月、イングリッシュカフェをオープンしました。

このカフェは、グローバル人材の育成のため、学生が、英語圏出身の講師や留学生などと昼休みのひとときを英語のみで会話する試みで、英語に慣れ、コミュニケーション能力を高めるために設置されたものです。

毎週3回(月、火、木)実施され、参加者は、学部・学年などは問わず自由に参加できます。



2014 「連続市民講座」 受講者募集中!

山梨大学は今年度も読売新聞甲府支局と共催し、「築く～豊かに栄える社会をつくる～」をテーマに全10回の連続市民講座を開催します。文系・理系を問わず、多様な切り口で我々の未来を築く最先端の知見について紹介したいと思います。

すでに第4回まで終了していますが、これから開催される講座がありますので、ぜひご参加ください。

【スケジュール一覧表】

	開催日	講義題目	講師
第1回	4月19日(土)	遺伝子が拓く近未来医療 ～環境で変わる遺伝子エピゲノムとその修復治療～	久保田健夫 教授 (医学部)
第2回	5月10日(土)	安全・安心・快適な都市を築く ～リニアを活かした都市づくり～	武藤慎一 准教授 (工学部)
第3回	6月21日(土)	古代史からみた山梨の地域性 ～甲斐国の成り立ちからその多様性を考える～	大隅清陽 教授 (教育人間科学部)
第4回	7月19日(土)	社会を築く情報通信ネットワーク ～インターネットのしくみ～	森沢正之 教授 (工学部)
第5回	9月20日(土)	フジマリモとその珍奇な仲間たち ～淡水産シオガサ目藻類の神秘的生態～	芹沢如比古 准教授 (教育人間科学部)
第6回	10月18日(土)	使いやすいデザイン ～なぜスマートフォンは「難しい」のか?～	郷 健太郎 教授 (工学部)
第7回	11月15日(土)	「生命の科学」で築く豊かな社会 ～いま私たちに問われているもの～	宮川洋三 教授 (生命環境学部)
第8回	12月20日(土)	美しく元気に老いる ～ロコモティブシンドロームについて～	波呂浩孝 教授 (医学部)
第9回	平成27年 2月21日(土)	家族を心理学する ～映画を題材に現代家族を読み解こう～	東海林麗香 准教授 (教育人間科学部)
第10回	平成27年 3月14日(土)	栄養学の基礎 ～健康維持のための栄養素の基礎知識について～	望月和樹 准教授 (生命環境学部)

*講座の内容等は、ホームページ

(http://www.yamanashi.ac.jp/modules/extension_courses/index.php?content_id=2)

【日時・場所】

開催日:「スケジュール一覧表」参照
会場:山梨大学 甲府東キャンパス
A2-21教室

定員:330人
時間:午後1:30～3:00まで
(午後1:00開場)
受講料:無料

【お問い合わせ先】

〒400-8510
甲府市武田4-4-37
「山梨大学教務課連続市民講座担当」
電話:055-220-8044
FAX:055-220-8796

編集後記

希望に満ちた新入生の笑顔でキャンパスが埋め尽くされた4月から、もう4か月が過ぎました。季節は夏本番、いよいよ山梨の「暑い」夏の到来です。「山梨大学広報Vine」第23号をお届けします。

今号では今春リニューアルオープンされた附属図書館を特集しました。耐震性が強化されただけでなく、従来の図書館に無かった数多くの学習支援設備(ラーニングコモンズ)が新設されました。皆さんが利用できる貴重な施設ですから、是非とも有効的に最大活用してください。

またVineでは、2つのキャンパスを持つ山梨大学を構成する4学部の教職員、学生、サークル、その他の情報を毎回バランス良く紹介しています。その内容は非常に多岐に及んでおり、毎日通っている大学ですが、知らない世界が沢山あることに驚かされます。大学というところは、まるで宇宙のようです。ここからだに少しのゆとりがある時、勇気を出して知らない世界の扉をノックしてみるのも良いですね。満天の星空の魅力を伝える「星を観る会」のメッセージにあるように、「観て体験する」ことが「学び」を起動させる要諦なのだと思います。

広報誌専門委員会委員長 小山勝弘

表紙作品の紹介



タイトル
「受容、そして拡がる」

鹿山卓郎
教育人間科学部学校教育課程
教科教育コース美術教育専修4年
「第88回国展」彫刻部B社奨励賞
を受賞しました。

山梨大学広報「ヴァイン」 August 2014 vol.23

発行者:山梨大学広報誌専門委員会

[本誌に関するご意見・お問い合わせ先]

山梨大学総務部総務・広報課広報グループ

TEL:055-220-8006 FAX:055-220-8799

E-Mail:koho@yamanashi.ac.jp

山梨大学ホームページ

<http://www.yamanashi.ac.jp/>



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。